

# 新山協ニュース

△ 発行者 鈴木敏雄      △ 発行所 新潟県山岳協会  
〒940 長岡市学校町1-12-23 室賀輝男方 TEL 0258-32-0428

## 昭和62年度

### 日山協海外委員総会報告

海外登山委員会 田中純夫

日山協海外委員総会が6月13・14日の2日間、東京代々木の岸記念体育館および国立オリンピック記念青少年総合センターで開催された。参会者は、日山協からは副会長、海外委員長、理事、常任委員、特別委員などが出席し、各県山協（岳連）代表とあわせて総勢49名であった。

日程第1日目は、石塚日山協副会長のあいさつのおと、神崎海外委員長より昭和61年度事業報告がなされ、その後尾形理事より第25回海外登山技術研究会の報告、高橋理事より第6回国際岩登り競技会の報告が行われた。その後神崎委員長よりUIAA（国際山岳連盟）の報告と、昭和61年度会計報告および昭和62年度の事業計画について説明がなされた。その後の質疑では日本のUIAA参加のメリットについて多少論議がなされたが、これについては日山協内部にも意見の分裂が見られ、

今一つ明確性を欠くという印象をもった。ここで会場を岸記念体育館から国立オリンピック記念青少年総合センターに移し、午後6時30分より遭難対策研究会が行われた。この研究会には一般からの参加者も多少あり、英国第三次エヴェレスト遠征隊の記録フィルムが上映された。これはマロリーとアヴィンが行方不明となった遠征のときのものであり、極めて貴重な、歴史的価値のある映画であった。映画のあとは海外での高所登山における雪崩遭難、クレパス事故、滑落事故、高度障害などをテーマに、まず田部井淳子さんからはエヴェレスト、トムール峰（中国名、ソ連名はボヴェーダ峰）での体験談が、次に神崎忠男さんからは二度にわたるエヴェレスト遠征のときの体験談が報告された。なおこの研究会には、たまたま来日中のソ連のスポーツマスター

1、オレック・シュミロフさんも参加していた。

日程第2日目は、日山協海外委員および各県山協（岳連）海外委員会を活性化する方法を搜るべく、

① 各県岳連における運営と活動

② 海外登山における情勢

③ 横（中央および他県岳連・委員相互間）のつながりに関して

④ 海外委員としての「つとめと心構え」

⑤ 日山協および海外委員会への提言

をテーマに分科会と全体会とが行われた。ここでの討論からは、東京、大阪など大都会を中心としたところの岳連（協会）では活動は活発であり、独自の行事や研究会などを行っているが、他の岳連で

では一部群馬県岳連などを除いてはみな活動は低迷化しており、海外委員として何をやってもらいたいかわからない、やっても人が集まらない、などといった共通した問題点が浮きぼりとなった。神崎委員長からは、地方を活性化する意味からも海外委員総会は地方持ちまわりに行きたい、との意向が示された。また岩手県岳連からは低迷する東北6県での独自の海外登山研究会を年1回位ずつ開催して行きたいとの計画発表があった。

海外委員とは何か、各県岳連（山協）海外委員会とは何か、何をなすべきかについて掘り下げて考えるよい機会であり、この会全体での討論の総括をもって2日間にわたる日程を終了した。

津南町の最奥大赤沢集落から硫黄川を渡り、猿面峰（1832m）経由で苗場山頂（2145m）に着く新ルートが完成して、昭和61年10月26日その記念登山に県山協の

人達と参加させてもらった。前日の25日は麓の集会所に集まり懇親会。「山は新雪がかなり積り天候も明日は悪くなるかも。それに登りもきつい」との話に不安になる。

### 苗場山 大赤沢コース

新潟山岳会 斉藤厚子

26日、朝寒いが天候はまあまあで「降りて来るまで持ちますように。」と祈りながら車で登山口に向う。途中から見えてきた山々は話の通り白くなっている、またも心配になつてくる。8時10分頃登山開始。参加者は、県山協の人達と津南町役場で募集した人達の合わせて53名。完成して間

道はまだ踏み固められていず、にフワフワと気持ちがいい。それでも所々にゴツゴツした石や、尖った切り口も新しい木の根など出ていて危なかったりする。しばらく歩くと風もなく太陽も顔を出しているので暖かく汗ばんでくる。きのこがあり少し遅いようだが紅葉もありと、落葉の上を行く秋の山を楽しんでいたが、登るにつれてだんだんと雪が多くなり滑ったりして歩きづら。猿面峰から見る山頂は、またこれから今迄歩いたのと同じ位歩くんじゃないかと思う程、まだずっと遠くに見える。それももったいないくらい下つてからの登りがとても急なので、昼迄に着けるのかと心配になつたりしてもうこ

こで終わりにしたくなる。それでも「初めて新人3名でやって来て、頂上迄行けなかったら会に報告しづらいなエエ」と言う事でもうひとがんばり。途中雪の為にルートが判らなくなり二手に分れて登ったが、雪の下がどうなっているのか判らないのでヒヤヒヤする。前の人の足跡から少し外れるともう膝迄も潜ってしまふ。最後の登りは本当

に急で、そのうえ雪がサラサラなので足跡もできず、一歩進むのも大変な状態。ちょうどそんな時に上の方で声があった。カモシカがいたらしい。残念ながら私は見る事ができなかったが、周囲の木々は樹氷のようでも綺麗だった。12時10分頃頂上に到着。何とか登れてほっとする。天気は良かったのにはあまり人が居無いのは雪のせいらしい。出発したのが遅かったので20分位しか休憩時間がなく、せっかくの景色もゆっくり眺める事ができず、昼食をとるのが精一杯。下山前にみんなで記念写真を撮つてあとは半分転ぶように雪の道を駆け下りた。下に着くと4時を過ぎている、先に下りた人達は解

散していたが熱いナメコ汁が待っていた。おいしくて思わずおかわり。疲れて冷えた体を暖めてくれる。今回残念だったのは頂上での時間が短かすぎて、一緒に登った人達との交流があまり

### 苗場・小松原スキーツアー に参加して (3月29日)

下越山岳会 齊藤 宣雄

できなかった事。もう少しし間に余裕があったらなと思つた。これからの機会があったら、会以外の人達との山行にもどんどん参加したいと思う。苗場山にもまた花の季節にでも登ってみたい。

(3月29日)

神楽峰、小松原の山スキーのことは日報での記事を読んだことがあり、また下越山岳会の先輩からも雄大なコースだと聞き、かねがね行ってみたいと思つておりましたが、今迄のように一泊二日で神楽峰に雪洞を掘つて泊るといった計画ですと、土曜日の朝から仕事を休んで行かねばならず、半ば諦めておりました。ところが今回は日帰りということを知り参加させてもらうことにしました。しかし、新発田からですと朝3時に家を出ないと間に合わず、それでは寝ている暇がありませんので前日は津南に泊ることにしました。役場まで10分位で行ける鹿渡温泉を選びました。鄙びた温泉で、湯治客しか泊

回は30分で着きもうかりました。幸い晴天に恵まれ神楽峰から鳥甲山、谷川岳、男体山、至仏岳、燧ガ岳が良く見渡せました。三ツノ山までの登り下りは難儀で、難所キリノトウの急斜面は雪も堅く、転ぶと下まで流されそうで、緊張して足がすくんでしまいました。何とか無事通過して、釜川の頭でホツとして昼食を食べました。あとはブナ、シラ

ビン、ダケカンバの林間コースを下るだけで、班長のトレースを外れないように付いて行きました。小松原小屋からは雪がくさつていてスキーが走らず、歩き疲れました。振り返ると今日滑つて来たキリノトウの斜面が遠くに見え、コースの長かったことがわかります。終着のグリーンピア津南は今迄の静けさと対照的に、近代的な建物が建ち、音楽が流れ、若者や家族連れで賑わつており、大都会に似たような錯覚を受けました。駐車場で全員無事滑り終えたことを喜び、また津南山岳会の労をねぎらいビールで乾杯し散会となりました。

## 第5回自然保護研究会報告

6月13日～14日、苗場のスキー場開発に関しての、自然破壊の現状視察と、今後の自然保護活動のあり方についての研修会が開催された。

東京から環境庁自然公園指導員坂井真氏、県の環境保全課から樋口義毅参事、石塚勝俊主任を講師に迎え、県下の熱心な自然保護活動者が参加した。

13日、湯沢町三俣の和田ロツヂに三々五々雨の中集まった仲間達。自己紹介をしながら懇親を深めました。

14日5時30分、宿舎を出発し、大島集落を過ぎた所でゲートがあり、事前に許可をとってあるので難なく通過することができた。鉢巻峠の下部に貯木場が2ヶ所あり、直径1m前後のブナが大量に伐採され積み上げられている。見渡してもどこで伐採され運ばれてきたのか判らない。一般者から通常見えない場所、ブナ原生林の切り出しが進められている。

林野庁では特別会計制をと

り、職員の給料捻出の為に、材木の切り出し販売を行っていると聞く。生活権も大事だと思いが、国の事業として、国としての自然保護、動物、昆虫、鳥類、植生、治水等大局的にみて伐採を考えて行くべきだと思ふ。今までブナ林伐採に賛成し、就労等で地元の潤いを喜んでいた所が、なぜ大事なブナを切ってしまったのか考え直してきている。伐採による仕事、その後の植樹、下草刈りの仕事で、生活を続けようと考えたのがうまく行かない。豪雪による倒木の面積が広いから、跡片付け、再植樹もままならない。綺麗になつてゐる所は、雪崩防止山崩れ防止の所で、今までブナを有していた山は見るも無残との感がある。ブナによる保水を、伐採により流出する水は、大金を使ってダムを造って解決しようとする。ひとつの行動がどれくらい大きく影響していくのか、考えると恐ろしくなってくる。

1200m付近まで車で入

ることが出来る。ここからスキー場の中を歩いたり、登山道を行ったりして、藪の具合、ブナの木の残り具合を観察する。スキー場内は緑化整備中で、ロープを張り保護しているが、良く見るとキャタピラ車で何回も往復し、表土を削り落とし、既存の雑木、笹等を根絶やしにして、自分の管理しやすい草を植えるようにしている。30～40cmもえぐられたコースは、雨が降れば川となつて赤土を流すことだろう。落葉が堆積してできた腐葉土の姿はない。スキー場開発、ゴルフ場開発と最近大規模事業による自然破壊の勢いはすごい。自然形態をまるで変えて、自然の中で再び元の姿に戻れないよう造り変えられている。

3年程前に架設された下の芝から上部のリフト脇、スキーコース脇は、ダケカンバ、シラビソなどが大量に伐採され放置されたままである。ゲレンデ整備時に出てきた岩石は、林の中にはうり出されたまま、自然保護を願う者として怒りを覚える次第である。最終リフトを降りて、20分も歩けば神楽ガ峰に到着できる所までスキーヤーを運べるようになった現在、新たな問題が提起されようとしている。スキーヤーの地理不案内による遭難事故である。今冬も2名の者が視界不良でルートを誤り、一晩雪中で過ごした。本人が自力で出てこない、広い雪原の中に永遠に眠ってしまうことになる。

参加者全員原生林がかるうじて残る神楽ガ峰まで登り、この自然を必ず後世に残さなければならぬと念じて、下山に移る。

13時から和田ロツヂに戻り、今日の見学地の意見交換、県内、全国の情報交換をして自然保護の認識、必要性を深めた。

最後に坂井講師より「折角開く自然保護研究会なのだから、決議をして文書を関係機関に提出すべきだ。会議や現地視察の内容を集約して、県や環境庁に提出しなければ、行政は動かない。ぜひ実行を！」とアドバイスをいただく。(八海醸造社長)

の自然保護指導員を擁したのだから、積極的に保護員を牽引していくように望む。問題の後追い視察ではなく、今後県内の自然保護を必要とする事柄の把握に務める時期にきているのではないだろうか。各自然保護指導員の積極的報告と、市民運動化して行く事の指導的活動を切に望みます。

参加者

坂井真(東京)、樋口義毅・石塚勝俊(県環境課)、石田国夫(とーろっこ山の会)、五十嵐篤雄・杉原八百樹(下越山岳会)、望月力(秀峰山岳会)、曾根義一・南雲利彦(塩沢山岳会)、高橋真雄(関川村山の会)、筑木力(新潟県彩山岳会)、坂井厚(水原山の会)、山田一男(分水山の会)、上野寿一・上野栄子(一峰会)、藤井信・徳長正・渡辺靖男・堀井浩・森庄一・杉本敏(長岡ハイキングクラブ)、渋川昭市(北越製紙緑星山岳会)、高木博明(長岡残雪クラブ)、桑原梯治(津南山岳会)、七沢恭四郎・平井敏公(高田ハイキングクラブ)、南雲和雄

### 自然保護研究会 参加御礼の手紙

東京都  
坂井 真

拝啓 長雨の候となりましたが、室賀様におかれましては公私共に忙しい日々をお過ごしのことと存じます。

さて、6月は新潟県山岳協会の自然公園指導員研究会に参加させていただき有難く感謝致しております。私生来の筆無精故お礼が遅れ申しわけありません。

喜太郎の娘さんとも20数年振りで会い、昔の思い出など懐しく話しました。

研究会参加の皆様方からは、地方の方々が真に自然の貴さを認識され、「一握りの資本家と政治家の癒着により行われる営利本位の開発、地元には殆ど利益をもたらさない自然破壊に対し、唯見てはいられない。」とした気持が滲み出ているように思われました。今後は、我々の微力を結集し、国民の意識の高揚により、林野の独立採算制廃止の問題と環境庁の権限の拡大に向け法改正まで持って行く事しかないと思っております。

この様な考えは国民の間で潜在し今漸くその蠢動を見るに至っております。

各自が粘り強く組織内よりその輪を広げて行けば必ずや国民全体の目覚める日も来ることを信じております。

その日迄、今回の研究会の輪が広がりを持つことをお祈り申し上げます。

また、皆様方と共に勉強出来る日を楽しみに致しております。敬 具

### 峡彩山岳会

此の頃

坂井 厚

多士沓々と活躍した創草期の人達も老年となり、その故か、ご多分に洩れず新入加入の無い年もあったが、近年は少しずつではあるが入会が続いている。初期の頃とは趣が違って完全な地域山岳となった。年令構成では20才代が少なく、30才代、40才代が多い。スポーツ化した登山、殊に国体山岳部門に対しては、嫌悪感すら持っているような体質を多分に内蔵しているのは、どうしようも無い事実。その反面、年間を通じてオーラ

ンドの山行に通ずるべく、中年の新人でも確実に吸収できるようにしている。ただ、県山協の行事に、もっと積極性を出して行ってもよいし、県内岳界はそれを期待している。そうでなければ老舗の名折れになる。

今夏合宿は、北股川本流遡行を目標に三パーティー程を、B山行としてトムラウシ山を計画している。秋には、10数年続いている奈良山岳会との交歓登山を仙ノ倉谷西ゼン。女子部主管の名山訪問を八ヶ岳に。冬合宿では、ここ暫く続いた飯豊連峰をA B山行とも、谷川岳周辺に変えた計画です。いずれにしても、中身は違っても伝統を重んずる山行に、楽しく安全にと、登山に精進している老舗の峡彩山岳会です。(1987・7・11)

### あとがき

木博明(長岡残雪クラブ)、望月力(秀峰山岳会)、土田利栄(津南山岳会)、上野寿一、上野栄子(二峰会)、五十嵐篤雄(下越山岳会)、渡辺龍・片野栄子(関川村山の会)、中村孝一(高体連)

沖繩国体に向けて、過激派がテロ活動をしようと計画しているの、協力をお願いします。と警察から協会事務局に連絡が入った。何で山岳協会が、そんな危険なところへ顔を出さなければならぬのかと思つたら、警察は、過激派の撲滅を目指して取り組んできたのが功を奏して、都市部、平場から追放されて、山間部に逃げ込み武器の製造に取り組んでいるとのこと。おちおちと自然を謳歌しに山へ行けないと心配になる。警察の話では、彼等は目的の為に行動しているので、一般者には危害を加えないだろうとのこと。いずれにしましても、不審者、不可解な小屋等を目撃されましたら、皆様最寄り警察に一報お願いします。

八海山十二平での遭難救助講習会参加者13名でした。実の有る講習会御苦労様でした。

### 協会創立40周年 記念登山(中国)

### 参加者名簿

笠原藤七(越後支部)、斉藤平七(峡彩山岳会)、石田国夫(一ろっこ山の会)、室賀輝男・藤井信・内山武夫・保坂学・芥木新一・竹日理恵子・五島保夫・中村千代一(長岡ハイイク)、高

### 読書は万能の基

新潟市営所通1-301

### 学生書房

電話 025-222-9870番

教習種目 大型・普通(第1種)大特  
自二輪・身障者用各種自動車

### 中条自動車学校

北蒲原郡中条町大字高野字茨島

中条 (0254)44-8071

社長 高野 愛子